

第5回新型コロナウイルス感染の広がりに関する景気動向調査の分析結果

2021/09/

1. 調査の概要（景気動向調査への協力依頼について（お願い））

霊枢（れいきゅう）事業者を除いてFAXで調査可能な会員事業所568事業所に、

- ① 【設問3】 R3年6、7月、8の売り上げ（対前々年同期比）
- ② 【設問4】 R3年9月以降（9月～11月）の売り上げ見込み
- ③ 【設問5】 標準的な運賃の交渉について
について、アンケート調査を実施（8月20日～9月3日）

- ④ 【回答数】 568事業所中、207事業者から回答（回答率36.4%）

2. 全体基調（資料1）

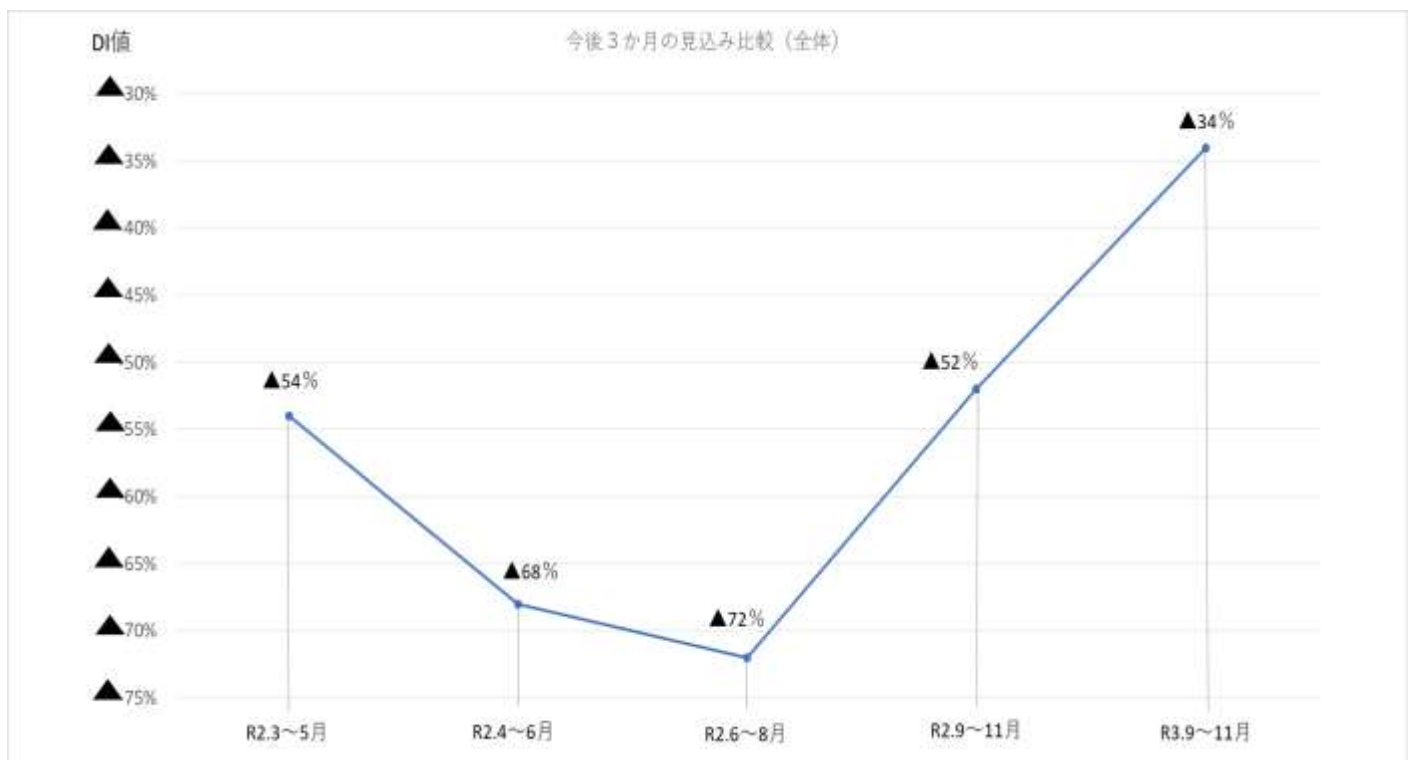
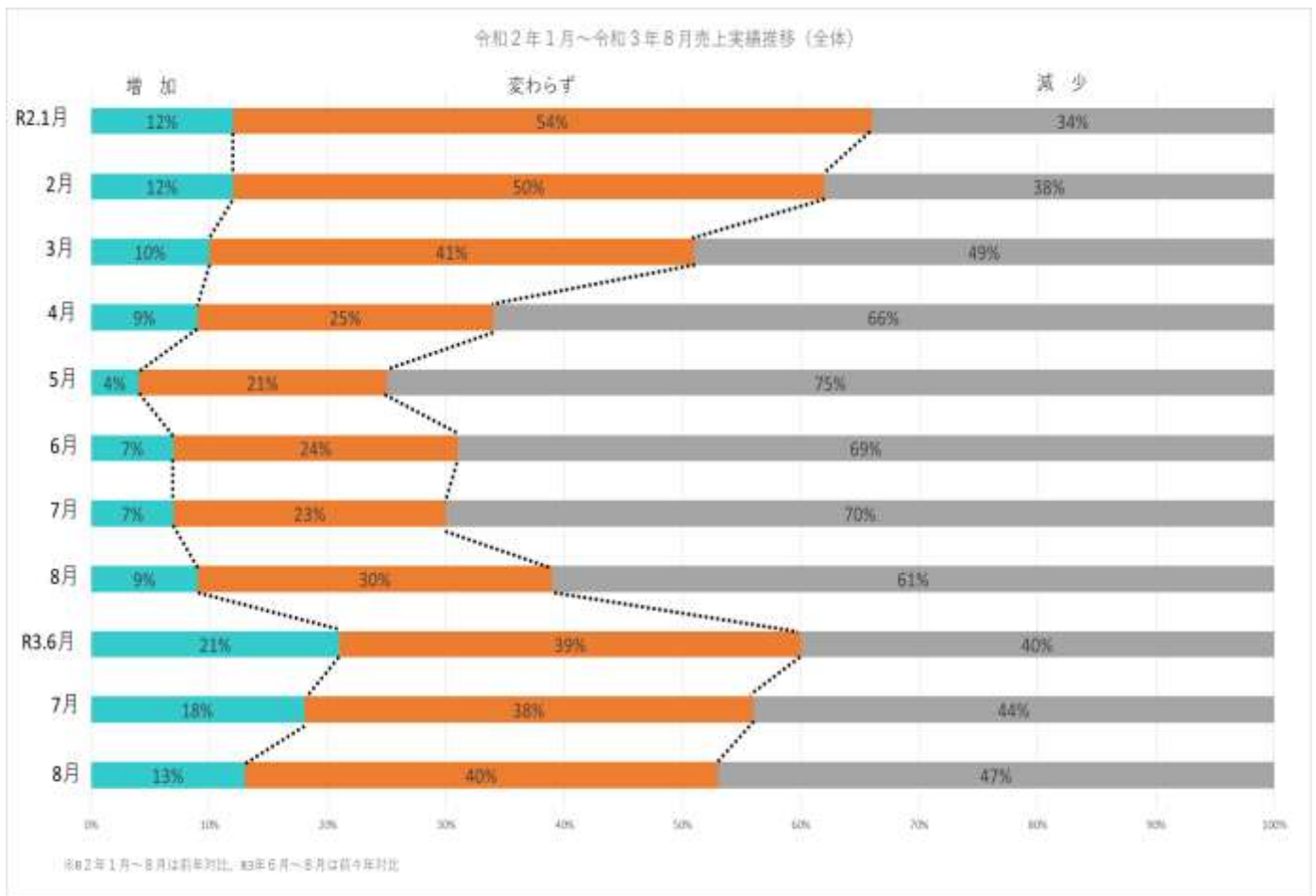
【設問3】の6月、7月、8月の売り上げにおける前々年同期比をDI（「上昇-減少」）で示すと、6月では、▲19ポイント、7月では、▲26ポイント、8月では、▲34ポイントとなった。

前回調査（令和2年6月から8月実績（DIはそれぞれ6月▲62ポイント、7月▲63ポイント、8月▲52ポイント））に比べ、6月の売り上げは、43ポイント高く、7月は、37ポイント高く、8月は18ポイント高くなっており、回復の傾向が見られる。

【設問4】の9月以降の先行きについては、DIが▲34ポイントで、前回調査時（DI▲52ポイント）より18ポイント高く、改善傾向が見られる。

【設問5】の標準的な運賃の交渉については、回答があった事業所のうち8%（14事業所）で運賃の上昇が見られた。また、「交渉したが現状維持」が30%、「交渉していない」が58%との回答があった。一方、4%の事業所では値下げ要請をされている。

全体基調	今回調査DI	前回調査DI	比較	傾向
6月売上	▲19	▲62	+43	➔
7月売上	▲26	▲63	+37	➔
8月売上	▲34	▲52	+18	➔
9月以降の見通し	▲34	▲52	+18	➔



3. 輸送品目別による前回調査との比較（資料2：6月、7月、8月売から）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別について「前回調査の令和2年6～8月売上」と「今回調査の令和3年6月～8月売上」を比較した結果は、以下のとおり

主な輸送品目		今回調査DI	前回調査DI	比較	傾向
木材	6月売上	13	▲50	+63	↗
	7月売上	13	▲79	+92	↗
	8月売上	▲7	▲63	+56	↗
ダンプ	6月売上	▲15	▲63	+48	↗
	7月売上	▲13	▲55	+42	↗
	8月売上	▲48	▲48	0	→
工業品	6月売上	▲29	▲80	+51	↗
	7月売上	▲50	▲82	+32	↗
	8月売上	▲66	▲73	+7	↗
食料品	6月売上	▲17	▲59	+42	↗
	7月売上	▲36	▲56	+20	↗
	8月売上	▲43	▲56	+13	↗
雑貨・宅配	6月売上	▲31	▲58	+27	↗
	7月売上	▲45	▲54	+9	↗
	8月売上	▲44	▲65	+21	↗
タンクローリー	6月売上	▲27	▲75	+48	↗
	7月売上	▲27	▲55	+28	↗
	8月売上	▲36	▲75	+39	↗
鉄鋼・重量物	6月売上	▲13	▲86	+73	↗
	7月売上	▲30	▲91	+61	↗
	8月売上	▲36	▲77	+41	↗

① 資料2の「減少率」の割合をみると、6月売上では雑貨・宅配が最も悪い。7月、8月実績では、工業品が最も悪い。続いて、食料品、鉄鋼・重量の2品目で減少率が高い結果となった。

一方、木材に関してはDIもプラスとなりコロナ禍前よりも良い状態となっている。これは、外国産の木材の輸入が減少し、国産木材の需要が高まったことが要因と考えられる。

4. 輸送品目別による見通し（資料2：9月～11月の見通しから）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別についての分析結果は、以下のとおり

- ① 工業品を主に輸送する事業所 — DIは▲48ポイント
- ② 雑貨・宅配の事業所 — DIは▲42ポイント
- ③ 食料品を主に輸送する事業所 — DIは▲37ポイント
- ④ タンクローリーなどの事業所 — DIは▲36ポイント
- ⑤ 鉄鋼・重量物を主に輸送する事業所 — DIは▲22ポイント
- ⑥ ダンプを主に使用する事業所 — DIは▲23ポイント
- ⑦ 木材を主に輸送する事業所 — DIは▲13ポイント
- ⑧ 前回調査と比較すると、タンクローリー（前回：▲87）で、特に回復傾向が見られた。

5. 輸送品目別による標準的な運賃の交渉（資料2：標準的な運賃の交渉）

雑貨・宅配、タンクローリーの2品目では10%の事業所で運賃が上がった。また、木材、雑貨・宅配の2品目では、約6割の事業所が交渉を行っており運賃向上への取組みが見受けられる。

6. 地域別による前回調査との比較（資料3：6月、7月、8月上から）

6地域における「前回調査の令和2年6月～8月実績」と「今回調査の令和3年6月～8月上」を比較した結果は、以下のとおり（前回調査：今回調査）

地区別		今回調査DI	前回調査DI	比較	傾向
大分西	6月上	▲17	▲63	+46	↗
	7月上	▲24	▲61	+37	↗
	8月上	▲32	▲65	+33	↗
大分東	6月上	▲26	▲57	+31	↗
	7月上	▲28	▲58	+30	↗
	8月上	▲43	▲55	+12	↗
別杵	6月上	▲19	▲87	+68	↗
	7月上	▲38	▲87	+49	↗
	8月上	▲44	▲73	+29	↗
県北	6月上	▲31	▲74	+43	↗
	7月上	▲46	▲75	+29	↗
	8月上	▲64	▲63	▲1	↘
西部	6月上	▲5	▲59	+54	↗
	7月上	▲13	▲59	+46	↗
	8月上	▲28	▲45	+17	↗
県南	6月上	▲12	▲50	+38	↗
	7月上	▲11	▲53	+42	↗
	8月上	▲36	▲48	+12	↗

※ 前回調査と比較すると、県北地域の8月実績以外では、昨年度より良い結果となった。

※ 前回調査時に最もD Iが悪かった別杵地域は、6月D Iは▲19ポイントと大幅な回復が見受けられたが、コロナの再拡大に伴い8月のD Iは▲44と県北地域に続いて悪い結果となった。

※ 西部地区のD Iは、6月が▲5ポイント、7月が▲13ポイント、8月が▲28ポイントとなっており、他地域に比べて良い結果となっているが、減少の割合では、20%以上減少した割合が他地域に比べ高くなっている。

7. 地域別による見通し（資料3：9月以降の見通しから）

6地域における大きな特徴は、以下のとおり

- ① 県北地域のD Iは▲49ポイントと全地域のなかで最も悪い。これは、コロナ再拡大に伴うダイハツ九州(株)大分第2工場の稼働休止が影響していると考えられる。
- ② 県北地域に続いて悪いのが、別杵地区の▲38ポイントでこれはコロナ再拡大に伴う観光客の減少が要因だと考えられる。
- ③ 木材輸送の多い西部地区は、今回は▲25ポイントと最も先行きの見通しが良い結果となった。

8. 地域別による標準的な運賃の交渉について（資料3：標準的な運賃の交渉）

地域別に見ると、運賃が上がったとの回答は、別杵地区の10%が最も高く、続いて大分東地区県、北地域の8%が高い結果となった。

9. 輸送品目別分類における時期的D Iの変化に対する考察（資料2から）

回答数が10事業所以上ある輸送品目別の6月～8月の売上と9月以降の見通しの変化については、以下のとおり

- ① 6月～8月の売り上げに関するD Iは、13ポイント～▲66ポイントと幅が広い。
- ② 9月以降の見通しでは、▲13ポイント～▲48ポイント
- ③ コロナの感染状況が売り上げに影響を及ぼしていることが読みとれる。
- ④ ダンプは7月から8月にかけて▲35ポイントと最も悪くなっているが、コロナの流行とあわせて、8月の大雨による工事等の中止が影響していると考えられる。
- ⑤ 最もコロナの影響を受けているのが工業品である。6月には▲29ポイントまで回復していたが、8月には▲67ポイントと前年度同様の悪い数値となっている。

10. 地域別における時期的D Iの変化に対する考察（資料3）

各地域において、6月、7月、8月と9月以降の変化については、以下のとおり

- ① 6月は各地域で▲5ポイント～▲31ポイント
- ② 7月は各地域で▲11ポイント～▲46ポイント
- ③ 8月は各地域で▲45ポイント～▲67ポイント

- ④ 9月以降の見通しでは、▲21ポイント～▲49ポイント
- ⑤自動車を中心とする製造業の盛んな県北地域では、海外からの部品調達等でコロナ流行の影響を受けやすいと考えられ6月の▲31ポイントから8月の▲64ポイントと全地域のなかで最もDIが悪い。

11. 調査結果を受けて

令和3年度のコロナウイルス感染症による物流への影響は、令和2年度に比べると徐々に減少しつつあったが、8月の第5波による感染の急拡大に伴い、依然として物流業界に大きな影響を及ぼしている。特に、製造物関連の輸送ではその傾向がみられる。アンケートの中には、「半導体不足・コロナの影響で東南アジアからの部品供給が滞っていることから、完成品が出来ずに年末まで悪化は続く」と予想している」との厳しい意見もあった。

また、昨年度に比べ、本年度は燃料価格が高騰しており、「売上は上がったが、利益率は減少した」との意見もあり、運送業界の取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いている。

このような中で、「標準的な運賃」についての交渉は、約6割の事業所が行えていない状況である。交渉を行えていない事業所からは、「貨物が無いのに交渉など出来ない」、「荷主が厳しい状況であるため交渉できない」等、コロナの影響が伺える意見もあった。

一方で、交渉を行った事業所は約4割あり、内1割で運賃が上がったとの結果も出ている。

コロナの収束の見通しが立たない現状において、交渉が難しいことが伺われる調査結果であるが、すぐに運賃が上がらずとも、来年、再来年に繋がるように粘り強く交渉を行って頂きたい。本協会としても、TVや新聞等のメディア使った広報を引き続き行っていくこととする。

また、本協会では、会員事業者ときめ細かい情報交換を設け、感染防止対策や人材確保等運送業界を取り巻く課題の解決に向けた取り組みを効果的かつタイムリーに実施していく。